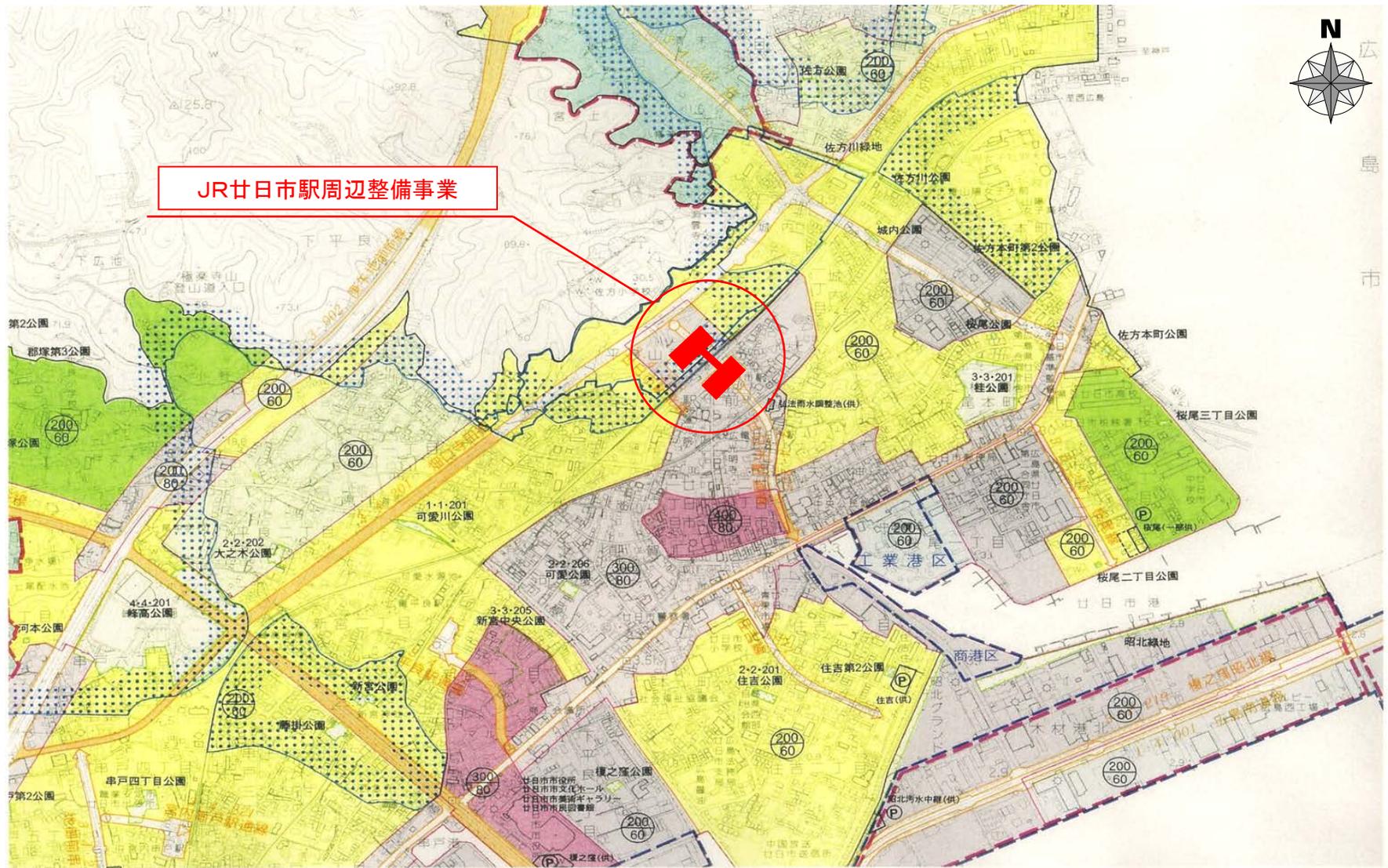


事業概要

ふりがな 応募者名	ひろしまけん はつかいちし けんせつぶ しせつせいびか 広島県 廿日市市 建設部 施設整備課
ふりがな 事業の名称	じえいあーるはつかいちえきしゅうへんせいびじぎょう JR廿日市駅周辺整備事業
ふりがな 事業主体	はつかいちし 廿日市市
ふりがな 実施都市名	はつかいちし 廿日市市
事業概要 (400字以内)	平成22年5月に策定した廿日市市都市計画マスタープランの中で、地区整備の目標として、「広島都市圏西部の広域拠点にふさわしい賑わいと魅力のある都市拠点、まちなか居住の場」と掲げ、基本方針では「多くの人が集い、行き交う賑わいのあるまちを創る」、「利便性の高い快適なまちなか居住を実現する」、「都市拠点・まちなかとしての一体的な市街地を形成する」としている。拠点性を持つ地区の計画的な整備、まちなか居住を支える交通環境の整備でJR廿日市駅及び周辺の交通環境整備(バリアフリー化、自由通路、駅前広場)を取り組むこととしている。
事業規模	○事業延長 : 廿日市駅構内線 延長約80m 北口駅前広場 約3,300m ² 南口駅前広場 約3,000m ² ○事業費 : 約25億8,000万円 ○幅員 : 廿日市駅構内線 幅員6m(南階段部 3.0m、北階段部2.5m) ○事業期間 : 平成25年度～平成29年度
事業の目的	鉄道で分断されていた駅南北地区を一体化させることにより都市拠点としての一体的な市街地の形成を図るとともに、駅前広場整備と合わせて交通結節点としての強化を目的とする。
事業効果 (効果一覧を参考に 具体的な効果を記入)	需要の増加/利用者数 ・廿日市駅の乗降客数が約6,600人/日(平成23年度)で推移していたが(都)廿日市駅構内線および駅前広場の整備により約7,900人/日(平成29年度)となり、整備前と比較し1日当たり約1,300人程度増加した。 流通・交通の活性化/アクセス時間、所要時間 ・鉄道によって分断されていた北側地域から南側地域への所要時間が(都)廿日市駅構内線の整備により、駅の南側および北側を起終点として徒歩10分から徒歩1分に短縮された。 ・バス乗降場が広場に整備されたことにより、バス停までの所要時間が徒歩2分から徒歩1分に短縮された。また地域コミュニティバスの設置によりJR廿日市駅を拠点としたアクセス性が向上した。
地元対応等 (・地域住民との協働等 ・合意形成等を図ったか ・地域に配慮した点)	【地域に配慮した点】 ・既設の跨線橋の撤去および橋上駅舎・自由通路の新設については、営業線および貨物列車等に影響の無い時間帯である夜間工事が主となるため地域住民の理解と協力が不可欠であった。 ・駅を供用しながらの工事となるため事故や利用者に対する不都合が発生しないよう関係各所と協議を重ねた。 ・特産品であるけん玉をデザインしたプレートや路上アートの提案など、勉強会を定期的に行い、地元の声を事業の中に取り入れることで行政と地元住民との合意形成を図った。 ・「木のまち」である廿日市の木材を主として利用する設計を行った。

都市計画図(用途地域図)



全体図



至 岩国



駅前広場(北口)

幅員 2.5m

延長 80m

幅員 2.5m

幅員 6.0m

幅員 3.0m

駅前広場(南口)

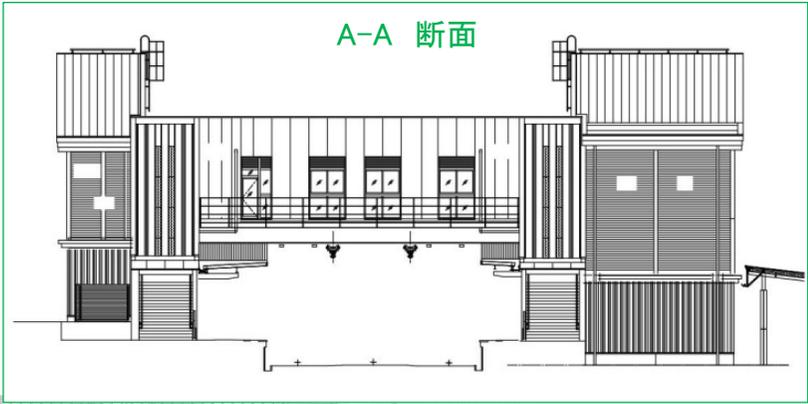
橋上駅舎

EV

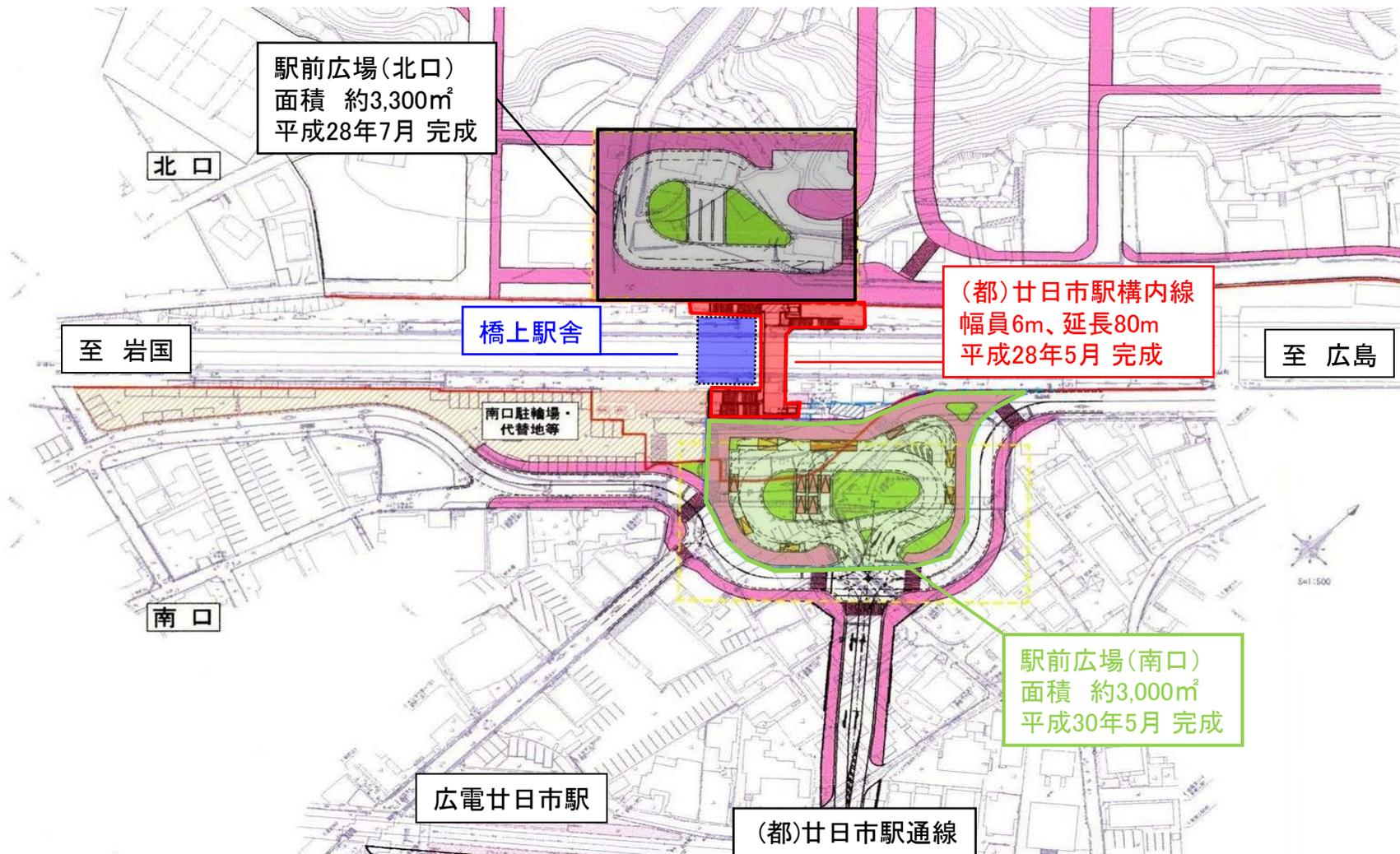
EV

EV

A-A 断面



路線全体の進捗状況



事業前写真

平成25年5月撮影



事業後写真

平成30年5月撮影



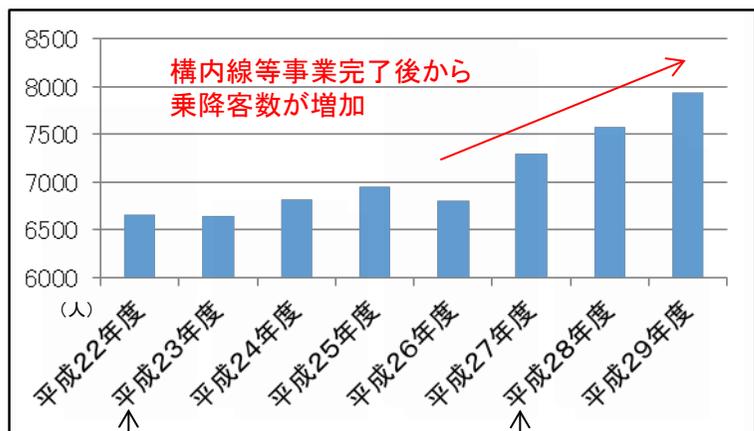
JR廿日市駅周辺整備の事業効果



整備後



一日平均乗降客数の調査結果 (JR廿日市駅)



自由通路・駅前広場(北口)完成

JR廿日市駅周辺整備事業開始

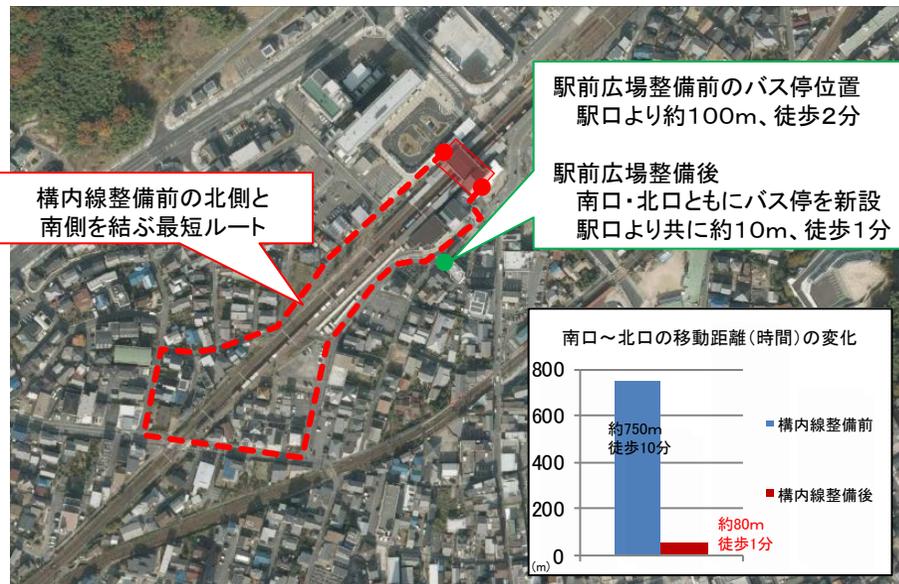
開発事業によるマンションやスーパーの建設 → 人口増加

新規にコミュニティバスの設置 → 駅を拠点としたアクセス性の向上

(都)廿日市駅構内線の整備 → 北側地域の駅口までの大幅な時間の短縮

JR廿日市駅の乗降客数増加

JR廿日市駅周辺整備の事業効果



駅前広場の整備



バリアフリー化
無電柱化の推進

(都)廿日市駅構内線の整備

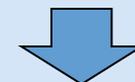


北口および南口の相互
アクセス性の向上

バス・タクシー乗降場を設置



JR廿日市駅の地域拠点性向上

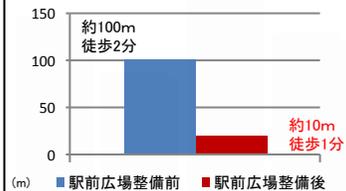


JR廿日市駅の利便性向上

駅前広場(南口)整備前



駅から最寄バス停の移動距離(時間)の変化



バス・タクシー乗降場、
ロータリー内に移設

駅前広場(南口)整備後



バス・タクシー
乗降場新設

駅前広場(北口)整備後



※公正競争規約施工規則より徒歩所有時間は分速80mとする。
また、信号および踏切による待ち時間は考慮しない。

平成30年4月7日(中国新聞)

変わる街 「けん玉アート」続々登場

廿日市駅周辺 発祥の地アピール



街灯や路上のパネル

廿日市市発祥とされるけん玉をアピールしようと、廿日市市のJR廿日市駅近くの街頭で「けん玉アート」が広がっている。再開発が終わった駅北側では、街灯や路上にけん玉をモチーフにした作品がお目見え。本年度内に整備する駅南側広場にも新作が続々と登場予定だ。

(山瀬隆弘)

駅北口の交差点に立つ街灯(高さ約11メートル)の先端は、けん玉をあしらったデザイン。近くの街路樹の根元を守る鉄板には「たまちゃん」(先頭がけん玉になった街灯。廿日市駅北側の交差点に立つ)のイラストが描かれたパネルが埋め込まれている。再開発を進める市が2015年3月から整備。パネルは25枚に増えた。市が本年度から整備を本格化させる南側駅前広場では、同じような街灯3基を設置。広島廿日市ロータリークラブ(廿日市市)が市に贈るモニュメント付き時計も設置される。歩道の5カ所には、近くのけん玉商店街へ方向を示す60センチ角のタイルを張る予定で、けん玉にちなんだデザインにする。商店街の加盟店でつくる廿日市駅通り商店会の発案で、デザインを公募中のホームページにある応募用紙を使って14日まで申し込みが完了した。

商店会は「来て楽しい駅前広場や歩道になれば、市外や海外からの観光客が世界に発信してくれる」と期待。市施設整備課は「市の特色をアピールして地域の活性化につなげた」と話している。

平成30年5月11日(中国新聞)

変わる街 南口広場完成 利便性高まる

JR廿日市駅一帯の再開発事業完了

廿日市市が2014年から進めてきたJR廿日市駅一帯の再開発事業が完了した。駅の南北を結ぶ自由通路を整備して利便性を高めた。木をふんだんに使った駅舎やけん玉をデザインした路上タイルで「木のまち」「けん玉発祥の地」をアピールする。12日に南口広場の全面利用が始まる。

(山瀬隆弘)



JR廿日市駅(奥)の南口に完成した広場

現在、駅西側の市道にあるバス停よりも、電車とバスの乗り換えがスムーズになる。再開発を進める市が2015年3月から整備。パネルは25枚に増えた。市が本年度から整備を本格化させる南側駅前広場では、同じような街灯3基を設置。広島廿日市ロータリークラブ(廿日市市)が市に贈るモニュメント付き時計も設置される。歩道の5カ所には、近くのけん玉商店街へ方向を示す60センチ角のタイルを張る予定で、けん玉にちなんだデザインにする。商店街の加盟店でつくる廿日市駅通り商店会の発案で、デザインを公募中のホームページにある応募用紙を使って14日まで申し込みが完了した。

商店会は「来て楽しい駅前広場や歩道になれば、市外や海外からの観光客が世界に発信してくれる」と期待。市施設整備課は「市の特色をアピールして地域の活性化につなげた」と話している。

再開発は14年5月に着工し、事業費は25億8千万円。従来は南口だけだった平屋の駅舎を建て替えて橋上化した。「木のまち」を象徴するように、15年10月に完成した新駅舎の内装には真産の木材を多用した。北口や自由通路は16年2月に利用が始まった。

一市東部の玄関口が使いやすくなった。市外からの駅利用者にも木材やけん玉などの市の特色を意識してもらえ、市施設整備課は「市施設整備課は、再開発を進める市が2015年3月から整備。パネルは25枚に増えた。市が本年度から整備を本格化させる南側駅前広場では、同じような街灯3基を設置。広島廿日市ロータリークラブ(廿日市市)が市に贈るモニュメント付き時計も設置される。歩道の5カ所には、近くのけん玉商店街へ方向を示す60センチ角のタイルを張る予定で、けん玉にちなんだデザインにする。商店街の加盟店でつくる廿日市駅通り商店会の発案で、デザインを公募中のホームページにある応募用紙を使って14日まで申し込みが完了した。」と話している。